

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2791300102		
法人名	社会福祉法人 白恵会		
事業所名	グループホーム恵の家		
所在地	大阪府貝塚市窪田166-6		
自己評価作成日	平成29年4月20日	評価結果市町村受理日	平成29年7月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年5月29日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは、明るい雰囲気大切に大家族として楽しく生活が送れるように寄り添う介護を行っている。入居者様の外出の機会を作り地域の盆踊りや祭りにも参加できるように支援している。毎月、季節に合わせたレクリエーションを行い、室内外で楽しんでいただいている。日中の余暇時間にはカラオケや散歩、買い物へ出かけたり喫茶店で楽しくティータイムを過ごすなど入居者様に楽しい時間を提供できる心がけている。家族様の行事への参加ご協力もあり交流を行っている。また、重症になっても安心して生活していただけるように医療連携体制を確保している。スタッフの資格取得にも力を入れ、より良い日常生活を送っていただけるよう努めている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム恵の家は、基本理念が明るい雰囲気の中、大家族で楽しく生活する・状態が変化しても医師や看護師と連携して充実した日常生活を・かけがえのない過去を受け入れ寄り添って介護を・自分らしく生きるという自己決定ができるように、近隣の方と協力し、地域の行事や活動に参加できるように・支援するという気持ちで運営されている。職員の定着がよく、様に利用者個々の満足を考えている。何をどうすればこの利用者に生甲斐や喜びを与えられるかということである。この気持ちは各利用者に伝わり、家族のような信頼感をもたらしている。利用者は穏やかに毎日の生活を楽しんでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	創設時の理念を基本理念と掲げ、新たに介護理念として入居者の状況に合わせたものを作り直し実行している。今後も見直しを行い実践に活かしていく。	大家族で楽しく・医療と連携して充実した生活を・過去を受け入れ寄り添った介護を・自己決定できる能力の維持・、地域行事や活動に参加できること・の意味の法人理念に加えて、職員で考えた介護の基本10か条を掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方の訪問を受け入れ、又、防災訓練、行事などの参加も呼びかけている。年2回の町内清掃に参加。	地域の清掃活動に利用者も一緒に参加し、ふれあい喫茶に出席、盆踊りに招待され、祭りにはだんじりが事業所に来てくれる。事業所防災訓練は近隣の人達も一緒にいき、毎年中学の職業体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来た地域の方にどのように手続きしたらよいかなど、相談、支援を行っている。民生委員を通じてホームへの理解を促している。		
4	(3)	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に(2ヶ月に一度)開催し、町会長、民生委員、地域包括、市職員、家族、入居者にて話し合い、意見を聞き運営に反映できるように努力している。	会議は2カ月毎に市の高齢介護課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、入居者家族と管理者で開催。参加者から意見、提案を頂き、運営に反映させている。議事録は家族にも配布することを考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市への報告、相談等を定期的に行っている。運営推進会議やGH部会時なども市職員の参加もある為、協力関係の構築に努力している。	市主催のグループホーム部会に参加し、事業所の概況報告と計画を報告している。また研修の案内や指導を頂きながら、協力関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、玄関などの施錠を行わず、所内にて身体拘束についての研修を行っている。	職員は研修などで身体拘束の具体的な行為は理解しており、拘束は行わない介護をしている。開所以来、拘束したことはない。玄関やユニットの入口も昼間は開錠し見守り、利用者に寄り添ったケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修への参加、所内での勉強会などを行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護の研修、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定時には書類にて説明を行い、解らないところは質問してもらうなどし、納得していただくまで話をする。退居時にも相談に乗り支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族に意見・要望があれば聞き運営に反映できるように努力している。又、投書箱を設け意見・要望をお願いしている。	利用者とは毎日の生活の中で希望を訊いている。一部対話し難い利用者には、家族から話を聞いて意向を確認している。家族からは事業所を訪問されたとき話し合う。最低でも月一回は支払いの為訪問される。意見希望は都度反映させている。	年1回めぐみ新聞を発行し写真に説明を入れ、ほぼ全員が載っている。家族も楽しみにしている様子。少しでも発行回数を増やし、利用者ごとの生活ぶりを短文で書き込み、お知らせすることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回会議を行い、意見を言える機会をつくっている。年に数回職員一対一の面談を行い意見を聞く機会も設けている。	月一回全体会議を開き意見希望を訊いている。他にフロア会議は計画担当者を中心に聞き、話し合う。管理者は随時職員と個別に話し合う機会を作り意見提案を聴き、それぞれ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に話し合い意見を聞いている。自己評価を行ってもらい、今後の目標を立てて仕事に取り組むようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所外、所内研修に参加してもらいスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH部会への参加により、他施設との情報交換や勉強会、グループワークなど行いネットワークを築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安、要望を聞き寄り添う介護、支援を行いなじみの関係をつくる努力をしている。傾聴することの大切さを職員は理解し行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話も傾聴し、相談に乗り信頼関係をつくれるように努力してる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なことを見極め支援計画に立て、サービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように暖かく、話のしやすい、なじみの関係を築けるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報の共有を行い、相談し支援を行っている。本人、家族、職員との連携を取ることで、より良い関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などいつでも訪問してもらえるよう支援する。また馴染みの店などに行き関係が途切れないように支援する。	地域のふれあいサロンで馴染みの人達によく逢える。散歩など外出の途中に馴染みの店に立ち寄ることもあり、又事業所へ訪問される人も多い。歓迎し、又、来訪しやすい様に関係継続支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握し、より良いかかわりが出来るよう時に職員が懸け橋になりに支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も相談の電話や来設を待っていることを伝え関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人に意見を聞き支援をしている。誕生日月に行きたいところを聞き、買物、外食など行っている。	毎日の生活の中で一人ひとりと話し合って意向を把握し、対話し難い利用者とは、態度仕草や反応を見ながら希望を推測し、又家族の意見を聴き希望に添うようにしている。誕生日に車で外出した場合等には、(1対1になった時)よく希望が聞き取れる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅に訪問し、どのような生活をしていたかなど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	皆で会議にて話し合い、支援計画に出来ることなど組み込み残存能力を使えるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、職員と話し合い日々の個別ケアを実践している。個人ファイルは整理し、常に見やすい状態にしている。	3か月毎に見直し、症状に変化があれば個人ファイルを参考にし、職員、計画作成担当者、家族で話し合い現状に即した介護計画を作成する。家族が参加できない時は後日訪問されたとき、又は電話で話し合い、了解を取るようにしている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度変わったところなど連絡帳にて情報共有し現状に即した介護を行えるように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、入居者、家族、職員にて話し合い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の趣味など今までしていたことを続けられるように支援している。(園芸が好きな方でよく行っていた花屋に行くなど)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿いかかりつけ医にて受診してもらっている。かかりつけ医との関係も受診時付き添ったり、手紙を書くなどし関係づくりをしている。	かかりつけ医は本人、家族の希望や要望で決める。多くは契約医療機関をかかりつけ医とすることに同意し必要に応じて往診を受けている、歯科医も同様。従来からの医師の受診は家族に依頼し、又は往診を受けている。家族の都合で事業所でも対応する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を看護師に伝え、わからないことは聞き、適切な看護を受けれるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い、入院中の様子を見に行き状態を看護師等に聞き関係づくりに努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期の指針にて説明を行っているが、看取りが必要となった場合には改めて本人様や家族様の気持ちを伺う。様子が変わるたびに家族様や医師、看護などと相談し情報を共有し支援を行っている。	入居時に重度化、終末期の対応指針を示し、事業所での対応を説明し、同意書を交わす。医師が重度化したと判断した時、改めて家族に医師から説明し看取り対応につき話し合い、同意書を交わす。事業所での看取り希望に対応できる体制はある。過去に何例か看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導のもと職員全員が行えるように努力している。勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、地震・津波避難訓練を年2回行っている。毎月の会議時には、あらゆる災害を想定し防災マニュアルを読みあげたり、水害対策や避難経路の確認、消火器の使い方、連絡網の確認等を行っている。近隣の方にも訓練の参加を依頼している。	年2回消防署指導も含めて避難訓練を行っている。近隣の人達も参加される。水害対策では隣接の有料老人ホームの3階に避難する。緊急連絡は近隣住まいの職員を含め、一斉に電話連絡するよう設定されている。備蓄もしている。	何時起こるか分からない災害に備え、落ち着いて安全に避難できるよう、利用者も一緒に避難訓練の実施が望まれる。年2回に拘らず、随時訓練を重ねる必要があると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように声かけを心がけている。又、接遇の勉強会も行っている。	職員は一人ひとりの人格を尊重した声掛けで接するよう努めている。職員も利用者も長くなり非常に親しい間柄で家族的になっている。個人情報書類等は鍵付きロッカーに適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを話せるまで待ち、自ら希望を表せるよう声かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切に支援を行い、希望を聞くよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度時服を選んでもらったり、買物に出かけ自分の好きな物を購入してもらうように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人に合うように食事を提供し、食べたいものなど聞き一緒に出来る食事作りを行っている。	食材はレシピ付きで納入されたものを、各フロア毎に調理し提供される。食事は、職員も一緒に同じもの食べ、明るく楽しい雰囲気を作っている。月何回かは利用者の好みのものを食材購入から調理まで皆で行い楽しんでいる。外食も時々行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を確保できるように支援し、状態に応じた介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、出来るところまで自らしてもらい不足分を介助するようにしている。必要な方は訪問歯科にてケアを行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来る限りパンツをはいてもらい、トイレにて排泄が行えるように支援している。日中はパンツ(紙パンツ)を使用しトイレにて排泄をしている。また、排泄パターンを把握し声掛け、誘導など行い支援している	6名はおむつ、布パンツは2名残りは紙パンツを使用しているが、各人の排泄リズムを把握し早目にトイレに誘導し排泄の自立を支援している。夜間も同様に行っている。早目誘導で好転している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認し、その都度個々に応じた予防を行っている。又、それでも出ない方は医師の処方した薬を看護師に出してもらい服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は各日で行っているが希望に沿って時間、日にちを変更している。ゆったりと楽しんでもらえるよう努めている。	大きめの浴槽で週3日と決めている。時間はほぼ決めてはいるが希望に添って柔軟に対応している。拒否する利用者もあるが、日や時間を変えて入浴を勧めている。ゆず湯等で季節感を楽しませたり、重症の人は2人介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動し夜間睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を職員で情報共有し、変化など気づけるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や気分転換(散歩、外出、喫茶)、など出来るように支援し、誕生日月にはしたいこと、行きたいところなどへ行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれ外出出来るように支援している。レクリエーションなどで外食なども行っており、家族も参加して楽しんでもらえるように努めている。	日常的には近所の公園や、川沿いの散歩道に出かける。地域のふれあいサロンへ行ったり社用車を使って誕生日の外出で買い物や食事に行く。すこし大きな車で岸和田城の夜店に行ったり、花見や、レクリエーションの外出では家族も一緒に楽しんでもらっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際支払いを本人にしてもらったり、欲しいものがあれば買物に出かけたりして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年それぞれ好きなように年賀状作り家族に送っている。電話の希望があれば出来るように支援している。		
52	(19)	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはゆったり座れるソファを置き冬場はこたつにして皆で暖を取り話せる空間をつくっている。季節にあった飾り付けをし季節感を感じてもらえるようにしている。又、飾り付け等が生活の障害(転倒する原因)にならないように工夫して行っている。	食堂とリビングを分けて使っている。リビングには大きなソファがあり、食堂には壁にテレビがありカラオケを楽しむことも多い。リビングでは冬にはこたつを入れて団欒を楽しむ。壁に日めくりカレンダーを懸け、時の見当識を助けている。玄関、エレベーターホールは絵画や手芸品を飾り、清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所などお互いが嫌悪感を抱かないように工夫し座ってもらい、ゆっくり過ごしたり、楽しくお話しできるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からなじみの物を持ってきてもらい、自宅にて過ごしていたように生活してもらえるように努めている。	居室は畳敷きの和室で窓には障子がはまっている。押入れがあり、ベッドの他は使い慣れた家具を持ち込み大きなパッチワークが飾られている部屋もある。それぞれに使いやすく従来からの生活の継続感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはわかりやすいように掲げ、各居室にはそれぞれの表札をつけ(家族、本人承諾のもと)自らトイレへ、居室へなど行けるようにしている。		